

.....

うきたむ考古通信

.....

2019年12月号

■発行者 うきたむ考古の会
事務局 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

館事業報告

👤 第21期考古学セミナー終了

今期は、例年どおり企画展のテーマに沿い「縄文時代後期の山形」と題して、全3回開講しました。各回の内容は以下のとおりです。

〈第1回〉9月29日(日) 受講者名

「置賜の縄文時代後期の遺跡」

手塚 孝 氏 (日本考古学協会会員)

置賜地方の中でも花沢A遺跡、大樽遺跡、竹井境遺跡など米沢市内の遺跡を中心とした縄文時代後期の文化や特徴についてのお話でした。

「村山の縄文時代後期の遺跡」

植松 暁彦 氏 (公益財団法人山形県埋蔵文化財センター)

川口遺跡、宮の前遺跡、作野遺跡などの村山北部の遺跡を中心として、講師が関わった県内の後・晩期の遺跡についても話ししていただきました。



〈第2回〉10月6日(日) 受講者名

「最上の縄文時代後期の遺跡」

水戸部秀樹氏 (公益財団法人山形県埋蔵文化財センター)

最上町かっぱ遺跡の遺構と遺物を中心にお話ししていただきました。かっぱ遺跡

の調査資料や出土品は今回の企画展の中心となっています。
「庄内の縄文時代後期の遺跡」

渋谷孝雄（当館館長）

庄内の縄文時代後期の研究史を踏まえて、各遺跡の遺構や・遺物を紹介しました。
今回、多数の資料を展示した小山崎遺跡は特に詳細に説明しました。



<第3回> 10月13日(日) 受講者名

「縄文時代後期の住居と集落」

菅原 哲文氏（公益財団法人山形県埋蔵文化財センター）

後期の住居の構造についてお話しいただいた後、墓の様子から集落内の構成員に階層差があった可能性についても言及されました。

「縄文時代後期の墓ー秋田を中心にー」

小林 克氏（三内丸山遺跡発掘調査委員会委員長）

秋田や青森に見られる縄文時代後期の墓である環状列石の他、広範囲にわたるお墓の民俗例について、お話ししていただきました。



♥秋の遺跡めぐり

恒例の秋の遺跡めぐり、今年は宮城県蔵王町を訪れました。館から国道113号線で白石まで出て、国道4号線経由で蔵王町へ。最初は蔵王町ふるさと文化会館「ございんホール」でした。ここには、教育委員会の事務局もあり、今回は蔵王町教育委員会の佐藤洋一課長補佐から案内していただくことにしており、館内でごあいさつを賜りました。

最初は「ございんホール」のロビーに展示された谷地遺跡の出土品や写真パネルを見せていただきました。縄文時代中期の大量の土器や土偶、石器が展示されていました。報告書は来年度刊行ということですが、とにかくすごい遺跡に皆驚嘆しました。展示替えを行いながら、公開を続けるということです。

つぎは同じく同ホールにある仙台真田氏の展示。蔵王町内に領地と在郷屋敷を持っていた真田幸村の次男大八（片倉守信）の子孫が所有する甲冑や武具、有名な六文銭の旗印等が展示されていました。

ございんホールを離れ、戻って刈田嶺神社へ。町指定文化財の隋神門、拝殿と境内にある白鳥関連資料などを説明していただきました。

つぎは重要文化財の我妻家住宅へ。当主の我妻信雄氏立ち会いの下、閉館中の施設を特別に見せていただきました。説明は母屋の土間で。とにかく広い。また、蔵等も指定され定理とのこと。屋敷内の建物についても説明を受けました。

我妻家を後にして遠刈田温泉へ。蔵王刈田嶺神社で町指定有形民俗文化財の文化財登拝絵馬（敬明講図）等を見学しました。

昼食は美味しい特別メニューでした。昼食後は岩崎山金窟址へ。鉦脈だけを掘り進む見事な採掘法にしばれました。

その後、平沢弥陀の杉とだるま講石造仏群と丈六阿弥陀如来坐像を説明していただきました。そして、ございんホールに戻る途中に真田の郷歴史公園で仙台真田氏にまつわるお話をうかがいました。

ございんホールで佐藤さんとお別れし、最後に十郎田遺跡、西小屋館跡など円田盆地の遺跡を見て、村田の道の駅を経由して帰途につきました。



バスの様子



谷地遺跡の展示品を見る



谷地遺跡の縄文時代中期の土器群



仙台真田氏の展示を見る



刈田嶺神社隋神門

白鳥伝説を聞く



我妻家住宅にて



蔵王刈田嶺神社

昼食



岩崎山金窟址

だるま講石造仏群



丈六阿弥陀如来座像



真田の郷歴史公園にて



円田盆地の遺跡群の説明板

♥ 勾玉・弓矢・石器、古代風ブレスレットをつくろう

5月19日、7月13日に続き、今年度最後の3回目となる勾玉づくり、弓矢づくり、石器づくりが、そして6月22日に続き2回目となる古代ブレスレットをつくろうが11月3日（日）文化の日に開催されました。

参加者は47名と今年も多くはありませんでした。

👤 企画展記念講演会から

令和元年11月17日（日）「山形の縄文時代後期について」

講師 小林 圭一氏（公益財団法人山形県埋蔵文化財センター調査研究専門員）

今年度の企画展講演会は小林圭一先生の「山形の縄文時代後期について」と題する演題で開催されました。

縄文時代後期とは「磨消縄文で装飾された土器」、「土器の器種の多様化と精粗の明確化」、「精神文化を示す遺物の発達」、「大規模遺構（環状列石・盛土遺構）の造営」、「海岸部では大規模な貝塚の形成・漁具の発達」、「トチの食料化と水場遺構の構築」に特徴づけられるとのお話で口火が切られました。

つぎに山形県の縄文時代後期の概略の説明がありました。山形県内では中期と後期の間

には遺跡の断絶があり、土器編年は後期前葉が南境1・2式、後期中葉は宝ヶ峯1～3式、後期後葉は瘤付土器Ⅰ～Ⅳ期として理解できるということです。また、仙台市の名取川と広瀬川に挟まれた郡山低地にある各遺跡では、縄文時代中期末から後期中葉まで地点を移しながら生活していたことが明瞭に捉えられることから、東北中部の後期の土器はこれらの遺跡の出土資料からその変遷が明確に捉えられるとして「郡山編年」を提唱したとのことでした。

その後、後期に入ると急激に増え、多様化する土偶についての説明があり、山形盆地各地域の住居跡と集落構造の変遷と列石や水場遺構、お墓のお話があり、さらに東北各地まで拡げての住居と墓を中心とした集落構造についての説明があり、最後に今日のお話のまとめとしてつぎのことが示されました。

①縄文時代後期の中では後期中葉中頃の宝ヶ峯2式期(加曾利B2併行期)が画期となっていること。これ以降は、遺跡数も出土遺物の内容も下り坂となること。

②東北地方の編年研究は、今でも、関東地方に比較して遅れた状況にあるが、東北中部の土器変遷は「郡山編年」で理解できること。

③後期では宝ヶ峯2式が土器造形技巧の到達点にあって、器種が多様化し、最も華やかな装飾性をもち、これが後期後半の瘤付き土器に継承され、やがて、亀ヶ岡式の母胎となること。

④大規模集落が解体され、小規模集団による分散した居住システムに変わった。

⑤トチの本格的な利用が進み、水場遺構が構築される。

⑥亀ヶ岡文化の基盤をつくった段階である。複合した生業活動と広域的ネットワークにより物資の相互補完が盛んとなった。縄文時代後期はこのように理解できると締めくくられました。



小林先生

講演の様子

♥ガラス玉をつくろう、カラムシで布をつくろう

6月15日(土)に続き今年2回目が11月30日(土)に開催されました。三つの時間帯を設定して開催しましたが、各時間帯合計で12組33名の参加がありました。

カラムシで布をつくろうは1名の参加でした

📍第XIV期うきたむ学講座のご案内

置賜地方の歴史や自然・民俗について理解を深め、関連団体の情報を交換し、置賜の歴史文化・自然遺産を大事にする目的で始まった講座です。多くの皆様のご要望に応え、今年度も実施します。

今回は、置賜の歴史研究の成果・地質鉱物・長井市史編纂事業から見えてきたことについて調査・研究・編纂事業に関わる講師の方々に講義をお願い致しました。置賜地域を多様な視点で捉える試みに、多くの方々の御参加をお待ちしています。

第1回講座：令和2年1月12日（日） 13:00-16:00

開講式(実行委員長開講の辞・主催者挨拶)13:00-13:10

■講座①「伊佐早謙が残した林泉文庫について」13:20-14:30

新宮 学 氏 (山形大学人文社会科学部)

■講座②「戦国末期から近世前期の土豪と村落—小国石滝村・五味沢村の両齋藤家の事例を通して」

14:45-15:55

渡部 眞治氏 (徳太郎文庫)

第2回講座：令和2年2月2日(日) 13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長)13:00-13:10

■講座③「鉱山と鉱床の形成過程」 13:10-16:00

中島 和夫氏 (山形大学名誉教授)

—懇談含む—

第3回講座：平成31年3月3日(日) 13:00-16:00

主催者挨拶(実行委員長) 13:00-13:10

■講座④「長井市の仏像・神像について」13:10-14:20

長坂 一郎氏(東北芸術工科大学)

■講座⑤「長井市史編纂事業について」14:35-15:45

岩崎 義信氏(長井市教育委員会)

閉講式(実行委員長閉講の辞・主催者挨拶)

◎主催 うきたむ学講座実行委員会・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

◎会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室

◎受講料 1回につき600円

◎対象 どなたでもご参加できます

◎申込み 電話・FAX・email：ukitamugaku@ukitamu.pupu.jpでお申し込み下さい。

👁️第27回展「縄文時代後期の山形」の図録が刊行されました。

この度、第27回企画展『縄文時代後期の山形』の展示図録を刊行しました。A4版、オールカラー本文62頁で頒布価格は1,500円となっています。

📍特別講演会のご案内

2019年7月、台湾の東海岸を出航してから約45時間後、全長7.5メートルの丸木舟が黒潮を越えて約200キロ離れた与那国島の砂浜に到着しました。3万年前の航海再現するためという目的がありました。この国立科学博物館の「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」で丸木舟の製作に必要な石斧の製作、立木の伐採、丸木舟の製作にあられた首都大学東京の山田昌久先生からお話をうかがいます。

日時 令和2年1月26日(日) 午後1時30分～3時

演題 「旧石器時代の丸木舟製作と航海の記録-木の伐採と加工にかかる石器製作と使用痕跡の研究-」

講師 山田 昌久 氏 (首都大学東京特任教授)

参加費 500円

📍2019年度山形の考古資料検討会のご案内

例年同様、今年度も山形考古学会と共催で開催いたします。今年は(公財)山形県埋蔵文化財センターの調査はありませんでしたが、米沢市、南陽市、長井市、高畠町で調査が実施されています。

現在、報告遺跡について検討中ですが、下記の要項で開催いたします。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

1. 事業名称 山形の考古資料検討会
2. 開催期日 令和2年2月9日(日) 午後1時30分から午後4時00分
3. 開催趣旨 令和元年度に県内で行われた発掘調査やこれまでに発掘された資料について関心を高めるとともに、考古学の進展、文化財保護の気運の醸成をはかることをねらいとして開催するものである。
4. 会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. 主催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
6. 共催 山形考古学会
7. 参加費 500円